



捜査官よ、犯罪者たれ。

エレメント・オブ・クライム

THE ELEMENT OF CRIME (FORBRYDELSENS ELEMENT)

1984年 デンマーク セピア・カラー 104分 監督=ラース・フォン・トリアー 出演=マイケル・エルフィック/ミー・ミー・レイ 配給=ユーロスペース

濡れたヨーロッパ。少女猟奇殺人。謎を追いつめる「犯罪の原理」。

エレメント・オブ・クライム THE ELEMENT OF CRIME (FORBYDELSENS ELEMENT)

1984年 デンマーク セピア・カラー 35ミリ ヴィスタサイズ(1:1.85) 104分

監督＝ラース・フォン・トリアー/脚本＝ラース・フォン・トリアー、ニルス・ヴェーセル/撮影＝トム・エリッグ

出演＝マイケル・エルフィック(フィッシャー)/ミー・ミー・レイ(キム)/エズマンド・ナイト(オズボーン)/

ジェロルド・ウェルズ(クレイマー)/アストリス・ヘニング＝イェンセン(家政婦)

●黄昏のヨーロッパを漂流する悪夢のフィルム・ノワール

1984年、カンヌ。28才のデンマークの青年が一本の探偵映画を抱えて南仏の地にいた。彼の長編デビュー作だった。スリムでボーイッシュな彼の姿は19才といっても通りそうだ。思わぬ幸運でカンヌ映画祭正式出品作品に選ばれたその映画はデンマーク国立映画協会の資金援助のもとでデンマークで撮影されたが、イギリスの俳優を使い台詞は英語だった。デンマーク映画がカンヌのコンペティションに出るのは20年ぶりぐらいである。国際的には全く無名な彼の作品だったが、いったん上映されるや近未来の「西欧の没落」を背景にした野心的実験作品として絶賛を浴び、記者会見は入場制限されるほどの反響を引き起こした。『エレメント・オブ・クライム』は「高等技術委員会賞」を受賞し、若き鬼オラース・フォン・トリアーの名は「カール・ドライヤー以来のデンマークの逸材」として世界に知れ渡ることになった。

この映画は全編を抑えたナトリウム・ライティングで撮影し、そのゴールデン・セピアの色調が「トランス状態にある主人公の意識の完璧な視覚的メタファー」と評されたが、それだけにとどまらず、ニューヨークのジム・ジャームッシュらと同じく新しい若い映画感覚に支えられている。「感覚」としての映画を作るためにあらゆる努力と研究がなされた。照明、フィルター、そして陰気なホテルや地下の運河的確なロケ。冒頭の粒子の荒れた8ミリ映像、精神科医が画面外で語りかける催眠的なささやき、その催眠術にかかった主人公のろくけだるいナレーションによる物語の進行、ハードボイルド探偵小説とフィルム・ノワールの雰囲気(『三つ数えろ』や『マルタの鷹』からオーソン・ウェルズの『黒い罌』にいたる)、水浸しのイメージ(『ブレードランナー』やタルコフスキーの『ストーカー』)、ポーランドの幻想映画のニュアンス。

誰か敵か味方か、自分は正常なのか、ただの妄想なのか、それすら判然としない。この疲れ果てたヨーロッパはずでに

死の世界(冥府)なのだろうか。耳元で声がささやく。「さあ、君のことをしゃべって見たまえ」。

*

迷路の旅路。ダシール・ハメット以降、探偵小説はルパンの活劇やホームズの明晰と訣別し、ことごとく事件という名の迷路の中をさまよいつづけてきた。『エレメント・オブ・クライム』もその迷路の伝統の上にある。

風景は混濁している。ノワール(まっ黒)ではないが、ほとんどはっきり色が見極められぬほど、黄色ともセピアとも金色ともつかない色に塗り込められている。この濃霧に包まれた黄昏の北方ヨーロッパは、記憶喪失と覚しい主人公フィッシャー(ドイツ語で「釣り人」を意味し、自分の無意識の中から何かをすくい上げようとする男を象徴する名前)の意識そのものだ。彼には師オズボーンの著名な捜査方法論『犯罪の原理(エレメント・オブ・クライム)』があるが、それは、捜査者の明晰たるべき意識を犯罪当事者の予測しがたい精神状況に譲り渡していくという危険な同一化の方法だった。「あれはフィクションであって科学ではなかった」。

感覚、それだけがたよりである。風、もの音、光、水、炎、熱さと冷たさ、そしてカン。何ひとつ確かなものはない。フリッツ・ラングの『M』を思い出させる連続少女殺害の猟奇事件はますます混沌としていく。「もっと精神を鍛えるんだ!」「3年間も季節がない」土地で、憩いも幸福も笑いも余裕も禁じられたヒーローが(そして観客も)カオスと化したヨーロッパを「最後の旅人としてだけでなく最後のヒューマニストとして」(インタビューより)横断していく。

犯人を追う者が殺人者と同じ道をたどり、事件現場が地理的に四角形をなすなど、奇妙なシンメトリーに支配されたこのストーリーは「ホルヘ・ルイス・ボルヘスの小説を思わせる」という評価も得ている。



4月25日(土)より公開!
(4月25日→5月8日は先行レイトショー)

ユーロスペース tel.461-0211
渋谷駅東急プラザロ下車2分 東急観光うしろ

開映＝先着入場・入替制

4月25日より		5月9日より			
夜9:00のみ	月・金	1:00	3:00	5:00	7:00
夜8:00のみ	土日祝	12:00	2:00	4:00	6:00

料金＝当日一般1500円 学生1300円
前売1200円(都内各プレイガバ、チケットぴあ、チケット・センゾ)

